

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第1回社会教育委員会議小委員会				
事務局 (担当課)		生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)				
開催日時		令和4年5月18日(水) 午後5時~午後7時				
開催場所		相模原市役所第2別館5階 教育委員会室				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	5人(生涯学習課長 外4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) 委員長の選出について (2) アンケート調査、ヒアリング調査の進め方について ア アンケート調査の内容・時期 イ ヒアリング調査の方法 3 その他				

議 事 の 要 旨

1 あいさつ

生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長あいさつの後、委員長選出まで議事が進められた。

古矢議長あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

2 議題

(1) 委員長の選出について

「相模原市社会教育委員会議小委員会の議事運営について」に基づき、委員長の選出について協議した結果、秦野委員が委員長に選出された。

また、副委員長については、秦野委員長の指名により、大谷委員が選出され、それぞれあいさつを行った。

(2) アンケート調査、ヒアリング調査の進め方について

事務局より資料に基づき説明を行った後、協議した。主な意見は次のとおり。

(秦野委員長)

まずはアンケート調査について議論したいと思うが、既に実施している市政世論調査とは重複しない設問内容にできると良いと思い作成した討議資料をお配りする。

相模原市に限らず公民館のアンケートは設問項目には○をつけてもらえるが、その他で自由意見をお願いしても記入されないことが多い。今回のアンケートは例示を多くし、複数回答にしてみてもどうかと考え、内容は研究調査報告書での提言や定例会のグループ討議の内容から例を挙げてみたものである。その他にも設問に加えるべき内容について思ったことを発言していただきたい。

(古矢委員)

これは誘引の例示だが、本委員会は社会教育委員会であること、公民館は地域との関わりが重視されるが、この2点について網羅するような設問を設けると良いのではないか。資料の設問にある「地域の特産品を開発して販売まで結びつける」ような設問は公民館の活動とはやや違うのではないか。

(秦野委員長)

文部科学省が公民館で地域課題を学ぶ北海道の事例として紹介しているもので、地場産業を盛り上げるところに公民館が積極的に関わるという例である。

(大谷委員)

地域で実施している収穫体験は多くの参加者が喜んでくれる取組であるが、コ

コロナの影響でここ2年実施していない。子どもたちにはこのような楽しい体験をしてもらいたい。また大人にも体験してほしい。

(秦野委員長)

「子どもに限らず農業体験ができる」講座という設問を入れたいと思うがいかがか。

(大谷委員)

子どもが参加すると親も一緒に参加できるため、子ども向けでも良いと思う。

(秦野委員長)

アンケートの調査項目の事業内容に地区名や生産物の名称を出すことで設問の意図をわかりやすくするようにし、「園芸や農業体験が身近なところで行える」というような文言を追加する。

(古矢委員)

社会教育委員会議定例会のグループワークでも多世代で楽しめる企画が良いという意見があった。そういう視点には合っていると思う。

(雨宮委員)

多世代交流は年配の方が活躍できる場を設け、そこに若者をどう繋げるかという話になると思う。緑区の古民家で中学生に竹を使った水鉄砲の作り方を教えたことがあり、環境も含めて楽しんでもらった。お店に行けば水鉄砲が買える時代だが、自分たちで遊びを作るという体験は世代間で楽しめる。大人が遊びを教えて、その様子を若者がSNSで公開するという役割を持たせる。そうすることで本市の公民館を盛り上げることにもなる。

(秦野委員長)

そうすると「自分たちで遊びが作れる講座(竹林の竹を使った)」のような設問にするのはどうか。

(大谷委員)

経験したことが無い方に興味を持ってもらえるのではないか。

(秦野委員長)

アンケート調査の設問はどのように表現すると良いか。

(小泉委員)

いただいた討議資料に○が付きにくいアンケート項目があるのではないか。人権や日常生活の利便性が高まる内容などは○が付きそうであるが、認知症の家族への対応などは対象者が限られ、○はあまり付かないのではないか。

(秦野委員長)

討議資料の「認知症の家族への対応」は「問題を抱える家族への対応」というように言いかえるのはいかがか。

(全員)

反対意見なし。

(小泉委員)

講座と書いてしまうと座学中心のようなイメージができてしまうため別の書き方が良いのではないか。

(秦野委員長)

催しという表現はどうか。

(全員)

反対意見無し。

(雨宮委員)

音楽イベントなどを設問に入れてはどうか。

(若林委員)

理由は様々だが、音楽室が苦手という子どももいるため、音楽の授業とは違う、好きなように楽器に接したり、自分の手に合った楽器を作ってみたりすると良い内容になるのではないか。

(水谷委員)

自分でもいくつかの講座を受講したが、聞くだけの講座ではなく自分の経験を話せる、実体験を聞ける催しが好評であるため、そのような形式を取り入れてみてはいかがか。

調査票は「公民館に行ったことがありますか」から始めると、行ったことが無い人はそこで回答が終わってしまい、それ以降の設問に回答してもらえないのではないか。

(秦野委員長)

アンケートでは「公民館でどのような催しをやっていたら」ではなく、「どのような催しがあると」で始め、敢えて公民館は入れないというのはいかがか。

(水谷委員)

そのようなイメージである。

(秦野委員長)

調査票の設計として、「あなたは時間があつたらどのような催しに参加してみたいですか」という設問で始まり、最後の方で「公民館を利用したことがありますか」の設問を設けても良いと思われるがいかがか。

(全員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

お配りした討議資料には「公民館を利用したことが無い人たちにどのような事業の形態なら参加しやすいか」を学生に聞いたことをもとに設問の項目を挙げている。学生からは開催日に関する意見、空いた時間にちょっと行けるような講座、

30分程度の短時間で終わる講座であれば参加しやすいという意見があがった。またビーズ細工やネイル、折り紙といった内容で、ちょっと行ってちょっと教えてもらって短時間で帰れるような講座であれば気軽に行けるという意見が出ている。

(小泉委員)

子どもに参加してもらうには、どうしても土日限定されてしまう。両宮委員の話にもあったが、物が作れた、行って良かったと思ってもらえそうな内容が良いと考える。通っているうちに顔見知りになる事業だと良い。お互い向かい合うのではなく、同じ方向に向かっていくことで自然と顔見知りになれようなきっかけが必要だと思う。事業の形態という視点ではどのような聞き方をすると良いだろうか。

(秦野委員長)

どのような形態なら参加しやすいのか、いくら内容が良くても遠い場所でしかやっていない、時間的な制約で参加できないという声がある。同じ講座を複数の会場、日程で開催する要望はあるのか、どの程度の時間なら参加しやすいかを聞いてみてはどうだろうか。

(大谷委員)

立場や事情が違う人から意見が聞けるので良いと思う。

(小泉委員)

若い人や学生は趣味を持つ人がSNSを通じて知り合いになり、そのうちお互い会ってみようということになる。そういう人たちが集まる場を公民館が提供できないだろうか。

(秦野委員長)

SNSのオフ会についてと、どのようなSNSを使っていますかという設問を設けてはどうか。

(全員)

反対意見なし。

(両宮委員)

公民館は固いイメージがある。明るい場所、様々なことができる場所というイメージが無い。以前東林公民館でゲーム大会が行われたが、このような大会を一度体験すると公民館に対するイメージが変わり、何かやろうというとき「公民館でできる」という選択肢が増える。体験が無いことから、申込の手續、ルールが厳しいと思われ、公民館を使うのは面倒だというイメージが先行しているのではないか。

(秦野委員長)

情報が沢山あれば講座に参加しやすいという声がある。講座のタイトルだけみ

てもどんな人が来るのか、どんなことをやるのかが分からないため、二の足を踏んでしまうが、楽しくやっている写真、出来上がった作品の写真が見えるなど情報があることで参加しやすく、行ってみようかなという気持ちになるという声を聞いている。

(雨宮委員)

公民館の情報を Twitter で発信していたが、若い世代の人から情報を得やすくなったと聞いている。

(秦野委員長)

アンケートについては事業の「内容」、「形態」、「情報」を柱とし、その他に「情報を得る手段」と「どのような情報があれば参加したいと思うか」という設問を入れたいと思うが他に意見はあるか。

(大谷委員)

あまり設問が多くても良くないのではないか。

(秦野委員長)

形態の部分についてはあまり議論されていないが、討議資料にあげている形態のうち不要なものまたは、追加するべきものはあるか。

(全員)

意見なし。

(秦野委員長)

本日の結果については素案として定例会に提出し、討議して固めていくこととしてよろしいか。

(全員)

承認する。

(秦野委員長)

続いて調査については、誰からどのような内容を聞くべきかについて議論したい。

ヒアリングの質問は研究調査の柱が関わってくる。定例会後に提出された研究調査の柱に関する委員の意見を見ると、今できていることとできていないことがある。できていないことをヒアリングで聞き取っていくと提案をまとめる際、解決策を提示するイメージもあるかと思うが皆さんどのようなイメージをお持ちか。

(古矢委員)

社会教育委員会議で議論していることをまとめ、「この問題について公民館の現場意見としてどのように思っているのか」という聞き方が良いのではないか。「公民館をこのように変えていければと考えているがどう思うか」という聞き方をすれば、「制約があるから難しい」や「実態が伴っていない」など様々な意見が出る

と思う。

(秦野委員長)

皆さんの意見からいくつかキーワードを拾って、それについてどう思っているかという設問でよろしいか。

(全員)

反対意見なし。

(古矢委員)

7月頃には研究調査の柱が浮かび上がってくると思う。それについてどのように思うか公民館職員等に素直に聞く方が現場の考えや思いを拾い上げられるのではないか。

(大谷委員)

公民館の職員は一生懸命取り組んでいるが、他の公民館職員と情報を交換する機会が少ない。事務的な研修ばかりではなく、情報交換の機会があると良いと考えている。この点について聞くことはできないか。

(秦野委員長)

令和元年度研究調査報告書に公民館のネットワーク型公民館を提言していることから改善すべき点であるため聞くことは良いと思う。

(古矢委員)

公民館のネットワーク化と同時に、各館共通してできる取組等が聞けると良い。

(秦野委員長)

今後の定例会で柱を整理し、柱としてあがったキーワードについて、公民館職員等にどう考えるかという投げかけができればと思うがいかがか。

(全員)

意見なし。

(秦野委員長)

対象者については事務局が用意した資料にある対象としてよろしいか。

(全員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

ヒアリングの実施方法について、委員全員で手分けして対面で聞くのか、委員をいくつかのグループに分けて聞き取りを行う等、様々な方法があるがどのような方法が良いと考えるか。

(水谷委員)

一度実施してその結果を検証し、内容等を改善していくと良いと考えるがいかがか。

(全員)

反対意見なし。

(若林委員)

全公民館で聞き取りを実施するのか、区ごとに数館を抽出するのかわり方法が違おうと思う。

(秦野委員長)

全館を対象にするか、その場合区単位で集まってもらうのか、集まってもらうとすると座談会にするのか。また、ヒアリング対象を館長とするのか、公民館職員全員とするのか、そのあたりを定例会に諮りたいと考える。

(古矢委員)

館長代理が考えていることと職員が考えていることはそれぞれ違うのではないかと。同じ場所でそれを語ってもらうことで共通の認識を持つことができるような場とするのはいかがか。

(秦野委員長)

公民館で館長と館長代理、職員が一堂に会して話をするというイメージか。全員が集まるとなると勤務時間外になってしまうが問題ないか。

(水谷委員)

全員一度に聞くとなるとそういう問題があるが、時間を区切って一人ずつ聞き取る方法であれば可能である。

(雨宮委員)

全員一度に聞いても言いたいことが言えるかが疑問だ。

(秦野委員長)

一堂に会するというのは難しいと思われるため、例えば公民館に行って一人30分ずつ聞き取りするという方法を定例会で諮るということによろしいか。

(全員)

反対意見無し。

まとめ

次のとおり次回の社会教育委員会議定例会に諮ることとした。

アンケート調査について

1. 催しの「内容」、「形態」、「情報」を柱とする。
2. 「情報を得る手段」と「どのような情報があれば参加したいと思うか」という設問を入れる。
3. 「公民館を知っていますか」という設問は最後とする。

ヒアリング調査について

1. 研究調査の柱に関する委員の意見からキーワードを抽出し、それについてどう考えるか公民館職員等に自由に答えてもらうという方法にする。

- 2 . 市内全ての公民館へのヒアリングは難しいため、数館を抽出し、様々な立場の方から話を聞く。細かい方法については定例会で議論する。
- 3 . 調査は小委員会ではなく、社会教育委員全員で対応する（会議の最後に確認があった）。

秦野委員長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

令和4年度 第1回社会教育委員会議小委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小泉 勇	相模原市立田名小学校長		出席
2	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会会長	副委員長	出席
3	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち 相模原支部役員		出席
4	秦野 玲子	RE Learning代表	委員長	出席
5	古矢 鉄矢	北里研究所参与		出席
6	水谷 英正	公募		出席
7	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市子ども・若者自立サポート 事業総括		出席